

序

大腸腫瘍の内視鏡診療において重要なことは「内視鏡挿入手技・診断学・治療手技」の3つで、どれ1つ欠けてもきちんとした診療は成立しない。大腸内視鏡がスムーズに挿入できなければ、正確な診断や治療はできないし、内視鏡の挿入手技を習得できても、正しい診断学が身についていなければ正しい治療法の選択はありえない。また、治療手技が未熟であれば十分な治療はできない。このような背景のもと2008年に羊土社から「大腸腫瘍診断」という大腸内視鏡診断学をマスターする実践的入門書を発刊させていただいた。2014年にはその改訂版を発刊させていただき、おかげさまで大好評を得て多くの内視鏡医の先生に愛読いただいている。

今回その続編として、Clinical Question形式で読みやすくわかりやすい「大腸内視鏡診断の基本とコツ～エキスパートならではの見かた・着眼点で現場の疑問をすべて解決～」を私が企画・監修し、編集作業を永田信二先生（広島市立安佐市民病院）と岡志郎先生（広島大学）に担当させていただいた。その内容は、拡大内視鏡観察、画像強調観察、超音波内視鏡診断、内視鏡切除標本の取り扱いなどに関して、若い先生の日頃の疑問を解決できる、あるいは知っておくべき具体的なコツ／ノウハウとピットフォールなどをその道の熟練者に手の内すべて暴露していただき、これまでにない診療現場で即戦力となる内視鏡診断指南書を完成することができた。本書では用語の定義と解説にも力をいれ、Case studyによる理解度チェックも行える構成になっている。大腸腫瘍の診断と内視鏡治療に携わる先生が本書を繰り返し熟読してくだされば、必ず明日からの診療にお役に立つものと確信している。本書が大腸内視鏡診療に日夜研鑽を積まれている若い先生のお役に立てれば望外の喜びである。

最後に、大変お忙しいなか快く執筆をお引き受けくださった諸先生に厚く御礼申し上げるとともに、このような機会を与えてくださった羊土社の諸氏に感謝する次第である。

2019年初秋

広島大学大学院医系科学研究科 内視鏡医学

広島大学病院 内視鏡診療科/IBDセンター

田中信治